整理番号	剥離マサムネ	作成日	2013年11月6日
4258-00	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver.11.05

安　全　デ　ー　タ　シ　ー　ト（ＳＤＳ）

１．製品及び会社情報

製品名	剥離マサムネ
製品コード	4258
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町１－１
担当部門	技術開発部
担当者	伊藤　慶
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	樹脂ワックスの剥離
作成日	2013年11月6日
改正日	-
整理番号	4258-00

２．危険有害性の要約

GHS分類

金属腐食性物質	区分　1	
急性毒性（経口）	区分　4	
急性毒性（経皮）	区分　4	
皮膚腐食性／刺激性	区分　1	
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分　1	
呼吸器感作性	区分　1	
皮膚感作性	区分　1	
生殖毒性	区分　1	（１Ａ及び１Ｂ）
特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分　1	
特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分　1	
特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分　2	
水生環境有害性（急性）	区分　3	
水生環境有害性（慢性）	区分　3	

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル

注意喚起語

危険

危険有害性情報

金属腐食のおそれ
飲み込むと有害
皮膚に接触すると有害
重篤な皮膚の薬傷・目の損傷
重篤な眼の損傷
吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
神経系、肝臓の障害
呼吸刺激を起こすおそれ、又は眠気やめまいのおそれ
長期にわたる、または反復暴露による精巣、腎臓、神経系、消化管、呼吸器系、肝臓の障害
長期にわたる、または反復暴露による腎臓の障害のおそれ
水生生物に有害
長期的影響により水生生物に有害

３．組成、成分情報

化学物質　・混合物の区別

・混合物

成分名／化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
アルコール系溶剤	40～60	非公開	非公開
2-アミノエタノール	19.5	141-43-5	(2)-301
アミン系溶剤	20～30	非公開	非公開
非イオン系界面活性剤	≦2	非公開	非公開
陰イオン界面活性剤	≦2	非公開	非公開

PRTR法報告物質

PRTRに該当する。

制令番号	物質名	含有量
1種20	2-ｱﾐﾉｴﾀﾉｰﾙ	19.5%

毒物及び劇物取締法

非該当　該当物質は含有するが、規定量以下のため非該当。

労働安全衛生法

通知物質　：　法第57条の2、施行令18条の2別表第9　名称等を通知すべき有害物質

制令番号	物質名	含有量
21	2-ｱﾐﾉｴﾀﾉｰﾙ	19.5%

有機溶剤中毒予防規則

非該当　該当物質は含有しない。

４．応急処置

大量に吸入した場合

・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
・眠気やめまいの症状が出た場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい状態で休息させる。
・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
・吸入の影響が遅れて現れることがある。
・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

・直ちに水で洗い流し、石鹸で液が付着した部分をよく洗うこと。
・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。
・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
・水で洗浄したのちに衣類が皮膚に張りついている場合は、無理にはがしてはならない。
・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと皮膚障害を生ずるおそれがある。
・この製品は引火性なので、火気に注意して措置する。
・直ちに医師の診断を受けること。

目に入った場合

・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
・洗浄後、医師の診断を受けること。
・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。
・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。

飲み込んだ場合

・直ちに水で口の中を洗浄する。
・直ちに医師の診断を受けること。
・無理に吐かせないこと。
・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。
・必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。

最も重要な兆候及び症状

・特になし

応急措置をする者の保護

・特になし

医師に対する特別注意事項

・特になし

５．火災時の措置

消火剤

・粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水

使ってはならない消火剤

・水を消火に用いてはならない。

・冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

火災時の特有の危険有害性

・燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

特有の消火方法

・消火作業は、可能な限り風上から行なう。

・関係者以外は安全な場所に退去させる。

・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。

・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する

・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。

・風上から作業し、風下の人を退避させる。

・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

・作業の際には保護具(必要に応じてガスマスク)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。

・多量の場合、人を安全に待避させる。

環境に対する注意事項

・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。

・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。

・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

・付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する

・火花を発生しない安全な用具を使用する。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

・使用前に取扱説明書を入手すること。

・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。

・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。

・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。

・他の容器に移し替えしないこと。

・取り扱い後はよく手を洗うこと。

・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

保管

安全な保管条件

・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。

・容器を密栓すること。

・日光から遮断し、４０℃を超える温度に暴露しないこと。

・耐腐食性あるいは耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

・施錠して保管すること。

・湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかないこと

安全な容器包装材料

・特になし

８．暴露防止及び保護措置

設備対策

・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

・屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「ー」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
アルコール系溶剤	ー	ー
2-アミノエタノール	ー	3ppm 7.5mg/m3日本産業衛生学会(2008)、 TWA：3ppm STEL：6ppm ACGIH(2008)
アミン系溶剤	ー	TWA 0.05mg/m3
非イオン系界面活性剤	ー	ー
陰イオン界面活性剤	ー	ー

保護具

呼吸器の保護具

・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

・保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

・保護衣、保護前掛け等を着用する。

９．物理的及び化学的性質

外観 ：淡黄色～黄色透明液体

臭い ：原料臭

臭いのしきい値 ：データなし

pH ：12 (10%)

融点/凝固点 ：データなし

沸点、初留点と沸騰範囲 ：データなし

引火点 ：100℃

自然発火温度(発火点) ：データなし

燃焼性（固体、気体） ：データなし

燃焼又は爆発範囲下限、上限 ：データなし

蒸気圧 ：データなし

蒸気密度 ：データなし

蒸発速度 ：データなし

比重 ：1.04

溶解性 ：水に溶解
オクタノール/水分配係数 ：データなし
分解温度 ：データなし
粘度（粘性率） ：29mPa・s
その他のデータ ：データなし

１０．安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

・通常の取扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

・特になし

避けるべき条件

・特になし

混触危険性物質

・特になし

危険有害な分解生成物

・特になし

その他

・特になし

１１．有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・アルコール系溶剤

《急性毒性》
経口LD50(ラット) 1230－1580mg/kg
吸入LC50(ラット) 1000ppm(8-h)経皮LD50(ラット) 1700mg/kg
腹腔内LD50(ラット) 400mg/kg
静脈内LD50(ラット) 64mg/kg
静脈内LD50(マウス) 324mg/kg

《皮膚腐食性/刺激性》
刺激性
ウサギの眼へ750ugを適用した実験では強度の刺激性が認められている。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》
呼吸器感作性:
皮膚感作性感作性
報告なし。

《発がん性》
報告されていない。

《生殖細胞変異原性》
In vivo 8週齢ddyマウス、単回腹腔内投与において小核の誘発は認められない。

・ 2-アミノエタノール

《急性毒性》
経口:ラット LD50:3320mg/kg
経皮:ウサギ LD50:1000mg/kg
吸入(ガス):データなし。
吸入(蒸気)データなし。
吸入(粉じん・ミスト):データなし。

《皮膚腐食性/刺激性》
腐食性を有する。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》
強度の刺激性を有する。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》
呼吸器感作性:呼吸器感作性を有する。
皮膚感作性皮膚感作性を有する。

《発がん性》
データなし。

《生殖細胞変異原性》
データなし。

《生殖毒性》
生殖のまたは胎児への悪影響のおそれの疑い。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》
神経系、肝臓が標的臓器と考えられる。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》
神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器系が標的臓器と考えられる。

《吸引性呼吸器有害性》
データなし。

・ アミン系溶剤

《急性毒性》
経口:誤飲すると、消化器官刺激又は潰瘍を起こすことがある。誤飲すると、口や喉に熱傷を起こすことがある。LD50,ﾗｯﾄ2000～4000mg/kg。
経皮:長期間又は広範囲の皮膚接触で、有害量を吸収することがある。LD50,ｳｻｷﾞ3266mg/kg。LD50,ﾗｯﾄ2250mg/kg。

吸入(蒸気)室温では、揮発性が低いので蒸気暴露は非常に少ない。加熱された物質からの蒸気は、呼吸器官に対し刺激性があるだろう。

《皮膚腐食性/刺激性》
短時間接触で、皮膚に火傷を起こすかもしれない。症状は、痛み、激しい局部発赤と組織損傷が含まれるであろう。衣服や手袋で覆われた皮膚により重度な反応を示すことがある。米国連邦運輸省の基準では皮膚腐食性があると分類される。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》
角膜損傷を伴う重度の眼刺激を起こすことがある。その結果、永久的な視覚障害によをおこしたり、失明することもある。化学熱傷を起こすことがある。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》
呼吸器感作性:
皮膚感作性皮膚接触によりｱﾚﾙｷﾞｰ性皮膚反応を示すことがある。類似物質(ﾄﾘｴﾁﾚﾝﾃﾄﾗﾐﾝ)にｱﾚﾙｷﾞｰ性皮膚反応を示したこのある人は、この製品に対してもｱﾚﾙｷﾞｰ性皮膚反応を示すことがある。

《生殖毒性》
実験動物を用いた試験で胎児毒性が認められた。

《吸引性呼吸器有害性》
経口摂取や嘔吐の際、肺への吸引の恐れがあり、組織損傷や肺傷害を起こすこともある。

・ 非イオン系界面活性剤

《急性毒性》
経口:ラット　LD50　1500～6600mg/kg
経皮:データなし。
吸入(ガス):データなし。
吸入(蒸気)データなし。
吸入(粉じん・ミスト):データなし。

《皮膚腐食性/刺激性》
データなし。

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》
眼に重大な障害を及ぼす危険性がある。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》
呼吸器感作性:データなし。
皮膚感作性データなし。

《発がん性》
IARC:設定されていない。
NTP:設定されていない。
日本産業衛生学会(2005年度版):設定されていない。

《生殖細胞変異原性》
データなし。

《生殖毒性》
データなし。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》
データなし。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》
データなし。

《吸引性呼吸器有害性》
データなし。

・ 陰イオン界面活性剤

《急性毒性》
経口:LD50(経口　ラット)=650mg/kg

《皮膚腐食性/刺激性》
発赤、痛み、皮膚熱傷、水疱

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》
発赤、痛み、重度の熱傷、視力喪失

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》
呼吸器感作性:陰性
皮膚感作性

《発がん性》
データなし

《生殖細胞変異原性》
データなし

《生殖毒性》
データなし

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》
気道に対して腐食性を示す。経口摂取すると腐食性を示す。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》
データなし

《吸引性呼吸器有害性》
データなし

１２．環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ アルコール系溶剤

《水生環境有害性》(急性)
生態毒性データ
藻類(セネデスムス)EC50 640mg/l(96-h)
甲殻類(オオミジンコ)EC50 55mg/l(24-h)
魚類(ブルーギル)LC50 10mg/l(96-h)
魚類(フアットヘッドミノー)LC50 460mg/l(96-h)

濃縮性:報告なし。
分解性:良分解(化審法) BOD5:62
移行性:揮発性有機物質100%
他の情報:オゾン層に影響しない(Conuncil Regulation, EC)

・ 2-アミノエタノール

《水生環境有害性》(急性)
ファットヘッドミノーLD50 227mg/L(96hr)、オオミジンコ EC50 60mg/L(48hr)、セレナストラム ErC50 25mg/L(72hr)

《水性環境有害性》(慢性)
難分解性 BOD 49%(標準法2週間)、生物蓄積性低い log Kow= -1.31

・ アミン系溶剤

《水生環境有害性》(急性)
物質は水生生物に対して軽度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種ではLC50/EC50/EL50/LL50 10～100mg/kg)。

・ 非イオン系界面活性剤

《水生環境有害性》(急性)
移動性:データなし。
残留性／分解性:＞60% BOD 28日 Closed Bottle Test (OECD 301D)
生体蓄積性:データなし。
生態毒性(水生生物毒性):LC50 96時間 Brachydanio rerio (fish) 0.28mg/L、EC50 48時間 Daphnia magna 0.84mg/L
その他:特に知見なし。

・ 陰イオン界面活性剤

《水生環境有害性》(急性)
(ミジンコ/48hr) LC50＝3-6mg/L(ドデシルベンゼンスルホン酸)

オゾン層への有害性 ： データなし

１３．廃棄上の注意

・内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

１４．輸送上の注意

国際規制：

国連分類

クラス8　腐食性物質

国連番号

3267　腐食性物質（有機物）（液体）（アルカリ性）、n.o.s.

容器等級　：　Ⅲ

海洋汚染物質　：　非該当

国内規制：

容器イエローラベル

153　毒性物質及び/又は腐食性物質（可燃性）

積載方法

運搬時の積み重ね高さは３ｍ以下

混載禁止

第１類及び第７類の危険物

高圧ガス

輸送の特定の安全対策及び条件

・「火気厳禁」
・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
・荷くずれ防止を確実に行う。
・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
・直射日光を避ける。
・水漏れ厳禁。
・横積み厳禁。
・夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

１５．適用法令

火薬類取締法：

対象外

高圧ガス保安法：

対象外

消防法：　（　）内は、指定数量

第四類第３石油類水溶性危険等級Ⅲ（４，０００Ｌ）

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)：

該当物質は含むが規定量以下のため非該当。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法：

通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)：

非該当　該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法（危険物）：

非該当

特定化学物質障害予防規則　：　非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法　(PRTR法)：

PRTRに該当する。　(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

１６．その他の情報（参考文献等）

ＧＨＳに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

ＧＨＳに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z7253:2012

ＧＨＳ分類結果データベース （独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

ＪＡＣＡ（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版 （日本オートケミカル工業会）

危険物船舶運送及び貯蔵規則 （海文堂）

※注意
安全データシートは､危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者に提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。